

第十七回特別展

平成十四年七月十九日(金)―九月二十六日(木)

狩 る

北の地に獣を追え

講演会 北方地域の狩猟文化
日時 7月27日(土)13:45-16:30
講師 宮腰 實 氏(柔道整復師/ハンター)
田口 洋美氏(狩猟文化研究所所長)

協力 国立民族学博物館 碧祥寺博物館 資料館ジャッカ・ドフニ
川井村北上山地民俗資料館 大槌町教育委員会 佐々木 史郎氏 田口 洋美氏

休館日 月曜日(ただし9/16,23は開館)、9/17(火)、9/24(火)
観覧料 一般300円(240円)/高校生・大学生100円(80円)/小学生・中学生50円(30円)
()内は10名以上の団体料金

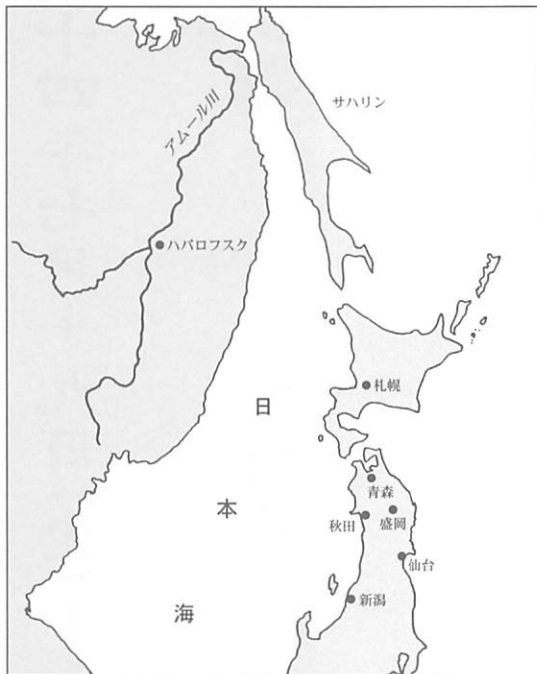
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1(天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889 ホームページ <http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

写真左: ウデへの狼跡(撮影: 佐々木 史郎氏)
右: 矢/北海道アイヌ(国立民族学博物館 蔵)





テン捕り網を設置するウデへの猟師 (撮影:佐々木史郎氏)

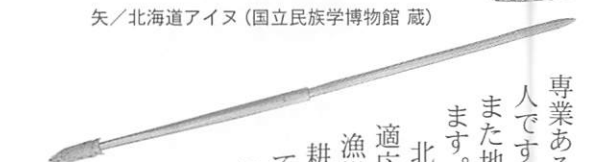


稲富流銃炮許可大事 (碧祥寺博物館蔵)



アムール流域からサハリン、北海道にかけての地域には、北方針葉樹林帯、温帯性落葉樹林帯がひろがり、鳥類、哺乳類、魚類が豊富な地域です。この地域にはナナイ、ウデヘ、オロチ、ウリチ、ネギダール、エベンキ、エベン、ニブフ、ウイ、ルタ、サハリンアイヌ、北海道アイヌといった北方民族が生活してきました。

一方、日本の東北地方は中央に奥羽山脈、東に北上高地、西に出羽山地を中心とする山脈が南北に連なっています。この山脈一帯はブナやミズナラなどの森林に覆われた豪雪地域です。ここには、今ではごくわずかになってしまいましたが、マタギと呼ばれる猟師が残っています。マタギとは東北地方の山間部に生活し、近世からの伝統的な狩猟技術を受け継いできた



矢/北海道アイヌ (国立民族学博物館 蔵)

専門あるいは兼業の狩猟者集団もしくは個人です。古くは山立(ヤマダチ)と呼ばれ、また地域によっては鉄砲打ちとも呼ばれます。

北方民族とマタギはともに寒冷地に適応して生活しています。彼らは狩猟、漁撈、採集、あるいはマタギでは農耕などの生業を組み合わせて生活してきました。彼らにとって狩猟は食糧資源の獲得はもちろん、交易品となる毛皮や薬を得るためにも重要な生業であり、さらに彼らの自然観にも大きな影響を及ぼしています。

本特別展では、自然の恵みのなかで培われてきた彼らの狩猟文化を紹介します。

期間中の催し

● 博物館クラブ 北方民族の狩猟具づくり
日時 八月十日(土) 午前十時三十分

● 講座 特別展「狩るー北の地に獣を追えー」解説
日時 八月十一日(日) 午後一時三十分

● 講座 映画「デルス・ウザーラ」にみる狩猟文化
日時 八月二十四日(土) 午後一時三十分 四時十五分

※参加はすべて無料です。事前にお電話でお申し込みください。

お問い合わせ

〒〇九三〇〇四二
北海道網走市字潮見三〇九一
(天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 〇一五二二四五一三八八
FAX 〇一五二二四五一三八八